



恭子の議会つれづれ

42年ぶりの再議!



「出 来っこない!」「パフォーマンスだ!」「説明不足だ!」激しいヤジの飛び交う臨時議会。議員になって8年目になる今ではもはや見慣れた風景で、品性を疑うようなヤジにも驚かなくなりました。しかし今回は特別です。一度は議会で否決された五輪招致検討予算案など3案を、市長が再議(地方自治法により1回否決された議案を再提出することができる市長権限。但し可決するためには、3分の2以上の議員の賛成が必要)にかけるといふ42年ぶりの珍事に議場が騒然となりました。

この発端は、3月の予算特別委員会での議決でした。特に白熱したのが「五輪招致検討費」「折り鶴ミュージアム(仮称)検討費」「市長の海外出張旅費」について「認める」「認めない」の議論です。私は、五輪・折り鶴ミュージアムそれぞれの検討費については「どんな問題でも可能か不可能かを明確にすることなくやめてしまうと『チャレンジする力』が萎えてしまう」と思い賛成。海外出張旅費は「核廃絶運動のなかで一番大切なこの時期に、世界中の平和市長会議に賛同する都市を訪ねることには意義があ

る」と判断し賛成しました。定例議会では様々な意見がでしたが、結局28対26(議長を除く54)の僅差で五輪招致検討費などを「認めない」ことになりました。しかし、市長の顔を最前列でいつも見ている私は、市長からただならぬ気配を感じました。「何か考えがあるのかな」と思っていましたら、臨時議会開催・再議突入となったのです...

この騒動の中、再議について広島市議会の歴史を紐解いてみると、いまから42年前、昭和43年4月20日の第2回臨時議会で「水道給水条例の一部を改正する条例」で水道料金の値上げが再議にかけられています。当時の会議録をみると市長は山田節男氏、議員定数50人で女性議員はただのひとりもいません。また当時議員で今も議員として健在な方がおふたり...。喧々諤々の徹夜議論を綴った記録のなかで感心したのは市長と議員との問答の長さでした。また、面白かったのは誰がどのようなヤジを発したかが正式に明記してあることです。ヤジの内容によっては末代まで恥をさらすことにもなりかねません。もちろんその逆もあるでしょうが...いずれにせよ議員の発言は重い、とあ

らためて思った次第です。

そして42年後の今議会。十分な議論もなく再議にかけられた議案は、一転して「認める」という結果になりました。偶然かもしれませんが、42年前も今回も翻意したのは公明党でした。再議の際、同党は「五輪招致をはじめから否定してはいなかった」と賛成の意を表しました。そうであれば初めから定例議会で原案に賛成していればこのような騒動も起きなかったのに...とその分かりにくさに「う~ん」と唸ってしまいます。市民の皆さんもいったいどういうことなのかと思われたでしょう。ただ、気になることもありました。それは市長の態度です。議会軽視と思われかねない再議までもちだすほど市長が大事に思う議案なのですから、議会で反対意見を前にして、答弁を人任せにはいけません。むしろ「これらの議案は核廃絶へ繋がる。その理念を大切にしたい。責任は自分がとります。」と堂々と自説を展開すべきだったのではないかと感じています。



市議会 こぼれ話

議場はひな壇になっている。つまり、段差があるということだ。バリアフリーとはほど遠い。本議会終了後、出入り口は1ヶ所なので全員がそこに集中する。ある日、古参議員は足に力がいらなかったのか身体が右へ傾き出口手前で倒れた。たまたま後ろにいた私は、とっさに あっ

という声と同時に 手 が出て服をつかみながら抱き起こす。もちろん周囲には議員がたくさんいた。しかし「オー」と声はあげるが誰も手をかそうとはしない。それ以来、挨拶だけの付き合いだったのが『大変ありがとう。ご恩は一生忘れません』と笑顔たっぷり。どうやら心のバリアフリーは実現したようだ。いずれにしても高齢化に伴い議場のバリアフリー化は必要かも!!



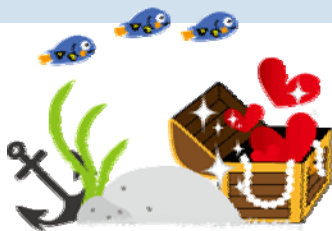
3月予算特別委員会

文教関係

スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用

特別支援教育について

特別支援教育（障がいのある子どもへの教育）では、対象となる児童生徒のクラス替えや進学に伴い、個別指導計画等の情報を適切に次の指導者に申し送ることが必要です。これらがうまくいかないと、子どもたちも新たに担当となった先生方も困ってしまいます。学校でつなぎ目のない指導をするよう要望しました。



子どもの貧困が今、日本でも問題になっています。親のリストラ、失業をはじめ格差社会のひずみが子どもにも影響を与え、給食費が払えないなどの経済問題が発生しています。また子どもがかかえる心の問題も根深いものがあります。

これらに対処するため、各学校に配置されたスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用が求められます。しかし、この制度がうまく運用されていない学校もあります。それぞれの役割をよく理解し、マネジメントする能力を高めていくために、校長先生全員が研修を受ける必要があると思います。

（スクールカウンセラー：子どもの心の問題の解決を手伝う臨床心理の専門家 / スクールソーシャルワーカー：学校だけでなく、家庭や地域など子どもの環境にも働きかける福祉の専門家）

厚生関係

父子家庭の現況と支援について

自立支援ホームの検討について

虐待を受け、親元に戻れない子どものための自立支援ホーム設立の検討がやっと始まります。中国地方では、広島県だけが自立支援ホームをもっていない。私は、設立準備のための連絡協議会のメンバーに里親体験者を加えること、自立支援ホームには男女別の住宅の用意が必要であること、さらに地域の理解をえることの重要性を強く訴えました。

母子家庭は公的支援の体制が比較的整っていますが、父子家庭には、ほとんど支援がありません。今回、政権交代により、父子家庭への児童扶養手当が初めて支給されることになりました。広島父子家庭はおよそ2000世帯ですが、児童扶養手当の対象者380世帯です。これは市が父子家庭実態をつかむチャンスとなります。漫然と手当を支給するだけでなく、実態調査をし、より有効な手立てを作るよう考えてほしいと要請しました。

区分	15年	16年	17年	18年	19年	20年
母子世帯	12038	12236	12591	12854	13037	13222
父子世帯	2108	2075	2119	2102	2117	2086

（広島市の世帯数）

広島子ども条例（仮称）

子ども条例の議案は、まだ上程されていないにもかかわらず、たくさんの反対派の議員が質問をしていました。私は発言通告はしていませんでしたが、余りにも勉強不足と思われる質問や意見が多いので、自分の質疑の際、前おきとして少し発言しました。

わが国には児童福祉法、児童虐待防止法があります。しかし頻りに虐待の報道がなされ、国の統計によると毎日1.4人の子どもが命をおとしているという現実があります。残念ながら、いくら法を整備しても法の網からまれていくことはたくさんあり

ます。条例をつくることで、さらに子どもにとっての守りを強固にしていくことが可能です。子どもの関わる“死角”を少なくすることは大人にとっての責務です。こまわりのきく条例を地方自治体レベルで作成して、補強していくことが重要です。

「子どもには権利はない」という極論を聞いてみると本当に情けなくなります。こども条例ができると子ども施策の展開は「努力義務」（してもしなくてもよい）から「義務」（しなければならない）にかわります。子どもにとって最善の利益をと私はそう願っています。

若草町地区の市街地再開発事業への貸付けについて

若草町地区再開発とは、JR広島駅北口の若草町の活気を取り戻すため、市営若草住宅をツインタワー形式のホテル棟とオフィス棟に変身させる事業のことで、民間会社を中心とした「広島若草都市開発合同会社」が事業主体となっており、すでに工事はすすんでいます。ただ、途中で不況を理由に外資系ファンドが撤退したため、その穴埋めとしてホテル・オフィス棟の保留床を取得する管理会社に40億円(そのうち国が20億円負担)を無利子で融資する方針を広島市が決めました。私はこの貸付がどうしても腑におちませんでした、

結局可決しました。「民間なら金融機関で借りればいいのに、金融機関が貸さない状況だから、国や市に泣きついてくる。不景気といってもそのくらい自力で調達できない会社を開発をまかせていいのか」という思いがこみ上げてきます。「その会社が倒産しても影響がないような契約にしてあります。ビルのテナントも稼働率を計算しても大丈夫です」と市側は説明はするものの、このご時勢にテナント・事務所がすぐうまって家賃収入がうまくまわるといわれても、にわかに信じがたいのです。

旧市民球場の跡地問題

4年間検討してきましたが、急に「説明不足だ」「球場をこのまま残すべきだ」という意見が一部の議員から出始めました。そして「解体費を含めた跡地構想の検討費は可決させ、旧球場の廃止条例は否決する」という整合性の全くない状態を議会が作り出してしまいました。私は、旧市民球場を保存すると、年間7000万円の管理費がかかること、耐震補強

に莫大なコストが必要なこと、すでに周りには人の流れが全くないことをふまえると、早期に集客機能のある新しい事業を考えなければならないと思います。結局球場の廃止条例が否決されたため、急遽あちらこちらからお金を集め、旧球場の暫定使用(5月1日~7月31日)をせざるをえなくなりました。

意見書提出!!

~子宮頸がん予防ワクチンを公費負担に~

子宮頸がんはウイルスが原因で、多くの場合性交渉によって感染します。性行為が始まらない12歳以前の女兒に予防ワクチンを接種すれば子宮頸がんにかかる人を70%減らすことができ、死亡者も73%減ると推計されています。すでに全額公費負担で接種している自治体がでてきました。広島市でも早い対応をすべきです。

*ワクチンを接種しても定期的な検診は欠かせません。

意見書提出!! ~非核三原則法制化~

「核を持たず、作らず、持ち込ませず」の3つの原則が守られず、実は密約で核は持ち込まれていた、という国会での報告を受けて、今回非核三原則の早期法制化を求める意見書を市議会が国に提出しました。長崎市議会では全会派一致で意見書を採択しましたが、広島市議会は自民会派の一部が反対し全会一致とはいきませんでした。被爆都市の議員として、世界にむけて核廃絶のアピールをしなければならないと思います。



2月議会

包括外部監査・広島市立大学について質疑をしました

市立大学内の不適切な備品管理について
教職員の出勤簿の不適切な管理について
平和研究所の移転・遊休地の遊休地の取得について

広島市立大学は2010年4月から公立法人化され、独立採算となります。その前に外部監査が行われて、問題点を指摘されたことはよいことだと思います。

答弁：陳謝と備品管理の徹底、出勤管理のIT化はじめ、研究所の大学内への移転など経費削減の取り組みをするということでした。

No.4

スタッフからまにわさんへ

問 答



5月の連休にニューヨークに行かれるそうですね。

核不拡散条約(NPT)再検討会議に行ってきます!

5年に一度ニューヨークの国連本部で開催される核不拡散条約再検討会議に行ってきます。今年は5月3日から開かれます。

この会議や開催前の様々なイベントに出席して世界の実情をこの目でみてきたいと思います。

もちろん、自費です!! 日本から2,000人、広島から100人の市民が参加予定です。





3/2 予算特別委員会(文教関係)
3 予算特別委員会(文教関係)
4 予算特別委員会(厚生関係)
5 予算特別委員会(厚生関係)
8 予算特別委員会(建設関係) カーブの集い
9 予算特別委員会(建設関係)
10 予算特別委員会(経済環境関係)
11 予算特別委員会(経済環境関係)
12 予算特別委員会(消防・上下水道関係)
18 クラブ会

19 予算特別委員会 袋町小学校卒業式 参列
24 がん検診キャンペーン 県医師会会議
24 がん検診キャンペーン 県医師会会議
25 討論・議決
26 議決
28 RFL打ち合わせ YMCA
29 タカノ橋青空市政報告・相談会
30 広報委員会 広域連合議会
31 臨時議会
4/1 中区大手町2丁目婦人会 出席

6 国泰寺中学校入学式 参列 袋町小学校入学式 参列
7 舟入高校入学式 参列
10
11 がん対策サミット2010春(東京)
12
19 広報委員会
23 YMCA総主事就任式 参列
24 ホームカミングディ女学院 参加
25 子どもシェルター YMCA講演会 出席
26 広島高速2・3号線開通式 参列
27 ~ NPT再検討会議 参加(NY)
5/6

夜空市政報告・相談

6月5日(土)

18:00 ~ 19:00

ひろしま女性学研究所 1Fギャラリー
(中区白島北町16 - 25)



身近な生活の心配事など、お気軽にご相談くださいね。
直接お話をお聞きして一緒に考えます。



今回は、こんな相談受けました!

ニュースレターを

Eメールでもお送りします。

メールでの送付をご希望の方は、
まにわ恭子HP から
(<http://www10.ocn.ne.jp/~ikiiki>)
直接メールでお申し込みください。

中小企業支援のための高度化資金貸付制度
について

(組合員の負担軽減のための運用方法はないか?)
花見弁当のゴミ処理について
(花見の時期だけでも収集回数を増やせないか?)
原爆手帳の申請について
(申請方法を教えてください)

青空市政報告・相談

6月7日(月)

13:30 ~ 15:00

タカノ橋商店街 パタパタふれあい広場
(中区大手町5丁目 商店街東側)



馬庭さんは、講演依頼を受け地域に出向かれます。さて今回の講演は、広島県が、がん検診キャンペーンをしていることもあり、女性の方を対象に「検診の大切さ」についてお話をされるということ。私も是非聞いてみたい内容と同行をさせていただくことにしました。まずは腹ごしらえ、途中でおにぎりをふたりでモグモグ。「私はこの町に来た訪問看護師の第一号です」と話し始め、ご自分の看護師時代のこと、がん発見から闘病、退院...著書「ナースがんばる ふんばる 走る」で読んでいたものの、やはりがんとの闘いはすさまじく、副作用で髪の毛のすっかりなくなった写真が映し出されたときは会場からどよめきが。辛かったにちがいない体験を、がん検診率を少しでもあげたい、早期発見でひとりでも救いたいという気持ちとそのなかでもユーモアも交えながら語る懐の深さをじわっと感じます。やっぱり、看護師さんのがん体験は説得力があります。「子宮頸がんの予防ワクチンは10代の若い人が対象なのでみなさまにはちょっと遅すぎますが...」にはみんな大爆笑。「もしあの時、検査に行くと決断しなかったら、いまは夜空のお星様」という最後の締めくくり思わず、「私、検診にいきます!!」(高井)



まにわ恭子事務所

〒730-0051 広島市中区大手町2-5-9
TEL&FAX 082-246-1907
E-mail ikiikihiroshima@lily.ocn.ne.jp
<http://www10.ocn.ne.jp/~ikiiki>